



〈研究〉ジェームズ・スチュアートノ研究(3)

福田, 敬太郎[稿]

福田, 徳三(校訂)

(Citation)

経済學商業學國民經濟雜誌, 28(2):225-234

(Issue Date)

1920-02

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/00053151>



ジエームス・スチュアートノ研究(其三)

福田敬太郎 稿

法學博士 福田 徳三 校訂

第三節 貨幣價值論

ロツクハ價格論ニ於テ需要供給説ヲ持シ、賣買セラル、物ハ之ニ對スル買手又ハ賣手ノ多少ニ比例シテ其ノ價格ガ高低スルト言ツテ居ル。此ノ説ハリカルド以下ノ學者ニ由ツテ繼承セラレヌ現代經濟學ノ中ニ編ミ込マレタガ、リカルドニ存スル矛盾ハ既ニロツクニ胚胎シテ居ルノデアル。生産費説ト需要供給説トハ兩立シ難イモノデアル。ロツクハ生産費説ノ中殊ニ勞働費ヲ抱イテ居ルト同時ニ需要供給説ヲモ尊重シテ居ル。需要供給説ハ兩面ヲ見ルモノデアルガ、生産費説ハ供給ノ方面ダケヲ觀ルモノデアル。此ノ矛盾ハマルクスニモ存スル。即チ彼ハ平均利潤率ヲ論ジテ居ルガ其ノ主旨ハ勞働費説ニ在ル。スチュアートニ於テモ同ジ影ガ映ジテ居ル。「眞實價值」ハ生産費説ノ名殘デアツタ。「安當價值」ハ「需要供給説」ノ產物デアル。而シテスチュアートガ彼ヨリ此ニ移リ來ツタコトハ否定出來ナイ。

抑、此ノ矛盾ハ價值ト價格トヲ明瞭ニ意識シナイトコロカラ起ルノデアル。經濟學ニ於テ價值ヲ論ズルノハ、價格ヲ説明スル爲メデアル。價值バカリ考ヘテ市場ヲ忘レテ了フカラ矛盾ガ起ルノデアル。思惟ニ走ツテ經驗ヲ疎ンズルトキニ最モ懼ルベキ誤解ト最モ笑フベキ滑稽ガ産レル。此ノ矛盾ヲ救ハントシテ使用價值ト交換價值トヲ區別スルケレドモ未ダ十分ト言ヒ難イ。ロツクハ私有財産ヤ貨幣ノ起源ヲ皆徹底シタ勞働說ニ據ツテ解釋シテ居ルガ、價格論ハ全然立場ヲ異ニシテ居ルトコロガ需要供給說ト矛盾スルノハ彼ノ價值論デアル。彼ハ貨幣價格ハ貨幣分量ノ多少ニノミ由ル貨幣ニ對スル需要ガ變動シナケレバ、貨幣ノ流通モ亦變動シナイ。貨幣分量ガ需要ニ比シテ少ケレバ貨幣價值ガ上ル。何トナレバ貨幣ノ代用物ガ無イカラデアルト云フノデアル。此ノ議論ハ一六九四年英蘭銀行ガアムステルダム銀行ニ倣ツテ紙幣ノ發行ヲ開始スルニ先ツテ行ハレタモノデアルニトヲ忘レテハナラス。ロツクハ紙幣ノコトハ全ク問題ニシナイカラ、貨幣ノ分量ガ減ズレバ貨幣ノ購買力ガ高マリ、從ツテ物價ハ下落スルト考ヘタ。此ノ貨幣分量ガ貨幣價格決定ノ唯一ノ原因デアルトスル素樸ナル貨幣數量說ニ對シテハ攻撃的批評ガ風クカラ現ハレテ居ル。而シテスチユアートモ亦貨幣數量說反對論者ノ一人トシテ立ツタ。ホフマンニ從ヘバ、彼ト同時ニカンチロンモ反對論ヲ持シテ居タガ、スチユアートホド徹底シタ意見ヲ發見シナカツタ。

スチユアートハ、勞働者ノ所得關係ガ穀價ノ標準ヲ決定シ、其ノ勞働者ノ所得關係ハ結局勞働ニ對スル需要ニ比例シテ高低スル賃銀ニ由ツテ定マルコトヲ述べタル後、貨幣ノ價格増加ニ及ボス影響ニ關スルモンテスキュー及ビヒュームノ說ヲ吟味シテ次ノ如ク言ツテ居ル。

(一) (モンテスキュー、ヒュームハ曰ク) 商品ノ價格ハ常ニ一國內ノ貨幣ノ多寡ニ比例スル。故ニ貨幣數量ノ増加ハ、タトヒ紙幣ノ如キ虚構的ノモノデアツテモ、其ノ分量ニ比例シテ價格ノ狀態ニ影響ヲ及ボス。又、

(二) 一國內ノ鑄貨硬貨ハ其ノ國ノ總テノ勞働及ビ商品ノ表象 *representation* デアル。故ニ此ノ表象 (即チ貨幣) ノ多少ニ比例シテ被表象物ノ價值量ガ定マル。ソコデ、

(三) 商品ヲ増加スレバ價格ハ低下シ、貨幣ヲ増加スレバ商品價格ハ騰貴スル。

此ノ考ヘ方ハ無双ニ奇麗デアル。一見スレバ之ニ由ツテ一切ノ事情ノ變化ヲ十分ニ覆ヒ盡シ得タカノ如ク見ユル。予ハ此ノ說ノ創唱者ヲ知ラナイケレドモ、卑見ヲ以テスレバ、ロツク及ビ一七一年十月十九日ノ「スベクテイタ」誌上ニ現ハレテ居ル。然ルニ此ノ說ハモンテスキューニ由ツテ巧妙ナル説明ヲ施サレ、更ニヒュームニ由ツテ其ノ理論ガ擴張セラレ、以テ彼ノ政治經濟論中ニ編ミ込まル、ニ至ツタ。ヒュームハ其ノ爲メ大イニ名聲ヲ擧グ、全歐洲ノ各國民ハ自國語ニテ彼ノ著書ヲ讀ンダホド知識階級ノ賞讃ヲ博シタ。……

予ハ既ニ各物ノ標準價格ヲ決定スルモノハ需要及ビ競争デアルコトヲ述べタ。若シ勞働者多クシテ需要少ケレバ仕事ノ價ハ廉クナル。故ニ若シ貨幣ノ増加ガ需要ノ強大 *rising* ヲ起スナラバ、仕事ハ其ノ價格ヲ増加スルデアラウ。何トナレバ其レハ競争ガ起ルコトヲ意味スルカラデアル。然シ若シ單ニ需要ノ増加 *augmenting* ヲ起スダケデアルナラバ價格ハ依然トシテ變ラナイデアラウ。サテ次ニ鑄貨又ハ紙幣ノ増加サレタル分量ハ如何ニ成ルノデアルカ。答ヘテ曰ク、兩方ノ場合共ニ、

需要ノ強大或ハ増加ニ比例シテ増加サレタル分量ハ流通スルト。唯兩者ノ間ニ違フトコロハ、需要ガ強大ニ成ル場合ニハ、供給ガ比例的ニ増加シ得ナイ事情ニ在ルノデアルカラ、價格騰貴ノ結果ヲ現ハシ、需要ガ増加スル場合ニハ、供給モ亦比例的ニ増加シ得ルモノト考ヘラレルカラ、價格ハ元ノマ、デアリ得ル。此レガ貨幣ノ分量ヲ増加シタル場合ノ影響デアツテ、即チ需要ヲ強大ナラシメルカ、或ハ増加セシメルカノ結果ヲ現ハスノデアル。

然ルニ若シ貨幣増量ノ場合ニ當リ需要狀態ニ何ノ變化モ起ラナカツタ時ニハ、恐ラクハ其ノ増加セラレタ鑄貨ハ或ハ藏ヒ込マレテ了ツタノカ、或ハソレトモ板金ニ鑄直サレテ了ツタノデアラウ。増加量ヲ所有シテ居ル人ガ消費ヲ増加スル欲望モ無ク、況シテ其ノ貨幣ヲ他人ニ與レテ遣ルホドノ豪氣モ無イ場合ニハ、其ノ貨幣ハ其レガ鑛山ニ在ル時以上ノ效果ヲ現ハスコトナク濟ンデ了フデアラウ。又紙幣ニ就テハ、曩ニ硬貨ヲ所有シナカツタ爲メ其レヲ振り出シタ人ノ需要ヲ滿ス第一ノ職務ヲ盡セバ直チニ其ノ債務者ニ還サレタ上、正金ト引換ヘラレルデアラウ、何トナレバ其レヲ流通セシメ置クコトハ無用デアルカラ。

故ニ、一國ノ正貨ヲシテ増加スルナリ、減少スルナリ、思フ存分ニ試ミヨ。商品ハ依然トシテ需要供給ニ由ツテノミ其ノ價格ヲ高低スルデアラウ。而シテ其ハ常ニ財產若クハ與フベキ何等カノ對價ヲ所有スル人々ノ氣分ニ由ルコトデ、彼等ノ所有スル貨幣ノ量ニ由ルコトデハナイ。

貨幣數量ヲ隨意ニ増加セシムルトモ、價格ヲ騰貴セシムルモノハ、獨リ貨幣ヲ費サントスル願望ノミ。貨幣數量ヲ或ル程度マデ減少セシムルトモ、其ノ國ニ一定ノ名目ヲ持ツ眞實ノ財産アリ、又

其レヲ所有スル人々ガ消費ノ爲ニ競争スル以上、價格ハ物々交換、表號的貨幣、交互計算其ノ他百般ノ工夫ニ由ツテ高キヲ續ク得ル。(Vol. II. pp. 84—87)

スチュアートハ、斯クノ如ク極力素樸ナル貨幣數量說ヲ排斥シテ居ル。全然需要供給ノ關係ニ由ツテ、殊ニ需要者側ノ競争ト購買力トニ由ツテ價格ノ決定ヲ論ゼントスル。價格ノ決定ニ就テハ貨幣ノ數量ハ何等ノ容喙權ヲ持タナイ。ヨシ貨幣增量ノ後ニ價格騰貴ノ現象ガ起ルコトアルトスルモ其レハ貨幣增量カラ出ル直接ノ效果デハナク、必ズ其ノ間ニ人々ノ心理的變化ヲ必要トスル。即チ景氣ガ變ラネバ物價ハ動カス。價格ノ變動ハ單純ナル算術的現象デハナク一ノ心理的現象デアル。

スチュアートガ需要ノ強大ト、需要ノ増加トヲ峻別シタコトニ注意セネバナラス。前者ハ需要ノ急激ナル發生トシテ現ハレル。需要力ノ膨脹デアル。必ズシモ恒常性ヲ有シナイ。之ニ反シテ後者ハ需要ノ緩漫ナル増加トシテ現ハレル。ソレダケ需要増加ノ恒久性ガ保證セラレ得ル。故ニ前者ニ供給ヲ配スルコトハ頗ル危險デアルガ、後者ニ對シテハ安ンジテ供給ノ増加ヲ圖ルコトガ出來ル。斯クテ兩者ノ區別ノ究竟的標準ハ心理的デアル。而シテ理論上貨幣增量ノ結果ヲ二者ニ區別スルケレドモ、實際上、殊ニ物質的享樂機關ガ發達セル近世ニ於テ、通貨ノ膨脹ガ如何ニ容易ニ心理的變化ノ原因トナリ、景氣ヲ好クシ、從ツテ物價ニ影響スルモノナルカハ他日ノ考察ニ委ネル。今吾人ハ進ンデスチュアートノ言フトコロヲ聽ク責任ガアル。

「商品ノ價格ハ商品自體ニ關スル事情ト人心ノ移動ニ關スル事情トニ由ツテ定マル。價格ハ兩者相互ノ關係ニ由ツテノミ變化スルモノト考ヘネバナラス」(Vol. II. p. 273)

此ノ斷定ヲ聽イテ吾人ハ直チニ反問スル。果シテ然ラバ貨幣ノ職分ハ何デアルカ。之ニ對スルスチュアートノ答ハ次ノ如クデアル。

「サレバ貨幣ノ職分ハ此等總テノ事情ノ結合ニ由ツテ定メラレタ物ノ價格ヲ表示シ認識セシムルコトデアル」(Vol. II. p. 272)

スチュアートハ貨幣ガ價值ノ客觀的表彰機關デアルコトヲ以テ自明ノ理ナルガ如ク立明シ又ソレヲ首肯セシメントテ例ヲ擧ゲテ辯明シテ居ル。彼ハ更ニ進ンデ貴金屬モ亦一ノ商品デアルカラ一般ノ價格法則ニ支配セラルベキモノデアルコトヲ述ベテ居ルガ(Vol. II. p. 288, Vol. III. p. 3, p. 85)之ヲ反面カラ解スレバ、貨幣ノ材料ハ商品デアアルガ、貨幣自體ハ商品ニアラズト云フ重要ナル意義ヲ含ンデ居ル。而シテ茲ニスチュアートガ貨幣ノ職分ヲ如何ニ考ヘテ居ルカラ明カニスル鎖鑰ガアル。

貨幣材料ハ商品デアアル。然シ貨幣自體ハ商品デナイ。貨幣ハ國民經濟上特有ノ職分ヲ保有シ、國民經濟ノ總テノ機關ヲ運轉セシムル爲ニ是非必要ナルノモデアアル。然ラバ如何ダケノ貨幣量ガ一國ニ必要デアアルカ。スチュアートハ其ノ量ヲ大體富者ノ消費額ト貧民ノ勞働所得額トノ和デアルト考ヘタ。

「吾人ハ既ニ述ベタトコロカラ次ノ如ク結論スルコトガ出來ル。一國ガ他國ト相通ジテ貨幣量ヲ如何ホド所有スルトモ、實際流通スルモノハ殆ド富者ノ消費ト貧民ノ勞働及ビ勤勉ニ比例スル量ダケデアル」(Vol. II. pp. 95-96)

ステュアートノ所謂「富者ノ消費額ト貧民ノ所得額」ハ正確ニ何ヲ意味スルカ。之ヲ「金持ノ小使錢ト勞働者ノ賃銀」ナリト解スルモ、其ノ計算ノ根據ヲ何處ニ求ムベキヤ判斷ニ苦ムトコロデアル。然シ兎モ角、國民經濟上一定分量ノ貨幣ヲ必要ナリトスルコトハ疑フベカラザル彼ノ主張デアル。而シテ其ノ一定量ノミガ流通スルダケデ其レ以上ハ用フル途ガ無イ。若シ過多ノ貨幣ガ現ハレタナラバ、或ハ貯藏セラル、カ、或ハ奢侈品ノ製造ガ盛ニナツテ來ルカデアル。之ニ反シテ若シ貨幣ガ此ノ一定量ニ不足スル時ハ、產業ガ阻止セラル、カ、又ハ其ノ闕ヲ補フ爲ニ貨幣ノ代用物ガ造ラルルカ、或ハ商品ノ直接交換ガ始マルニ至ルノデアル。

「歐洲各國ニ於テハ實際ニ行ハレテ居ル讓渡、賣買ニ殆ド等シイ流通額ガ存在スルコトヲ疑フコトハ出來ナイ。……昔時、貨幣ガ流通スル額以上遙カニ超過シ、金庫ニ停滯シタコトガアツタ」。(Vol. III, p. 150)

「我々ハ第二編ニ於テ、一國ノ流通貨幣ハ其ノ國ニ規則的ニ存在スル商工業、消費、讓渡ニ常ニ比例スベキモノデアルコト、及ビ若シ一國內ニ既存ノ貨幣ガ上述ノ目的ヲ達スルニ不充分デアルトキハ其ノ不足ニ等シイ額ダケ固定財産ノ一部ガ所謂融通セラレ、紙券トシテ流通セシメラル、コトヲ述ベタ」。(Vol. II, p. 147)

「銀行券、銀行預金、手形、債券、(信用ノ授受セラル、)商業帳簿等ハ表象貨幣ト名ヅケラル、信用ノ種類デアル」。(Vol. II, p. 39)

若シ此ノ貨幣代用物ガ其ノ不足ヲ補ヒテ尙ホ餘リアルニ至ルトキハ、自カラ逆流シテ其ノ姿ヲ匿

スモノデアル。

「紙幣ニシテ此ノ比率以上ニ増加スレバ、既ニ流通セル一部分ハ債務者ニ歸ツテ來テ新ニ正貨ト引キ換ヘラレナケレバナラス」(Vol. III. p. 147)

デアルカラ、貨幣需要ニ對シテ過不足ノアルト云フコトハ不可能デアルト云フノガ、スチュアートノ思想デアル。國民經濟上、一定量ノ貨幣需要アリ、而シテ其レニ對スル貨幣量ガ常ニ存在スル筈デアルト説ク。戰爭ノ如キ不時ニ貨幣ノ大需要ガ起ル場合デモ、貨幣不足ノ心配ハ無イ。

「貨幣ハ決シテ商業國ニ於ケル流通使用ヲ超過スルコトハ無イ。非常ノ供給ヲ要スル戰爭ノ際ニ於テスラ金庫カラ引キ出サズシテ利息ヲ拂ツテ借リルコトガ出來ル」(Vol. III. p. 150)

價值表彰ノ機關トシテノ貨幣ハ徹頭徹尾受動的ニ働イテ居ル。スチュアートハ全然貨幣ノ側ニ於ケル貨幣價值ノ變動ヲ拒否シヨウトシテ居ル。然シナガラ其ノ主張ハ最後マデ押シ詰メルコトガ出來ナイテ、或ル場合ニハ貨幣ノ側ニ於ケル貨幣價值ノ變動ガ起リ得ルコトヲ許シタ。第一ハ貨幣ノ過剩額ガ貯藏セラル、コトナク其ノマ、流通スル場合デアル。第二ハ貨幣複本位制度ノ場合デアル。貨幣ガ國民經濟上必要ナル一定ノ分量ヲ超過セル場合ニハ、原則トシテ其ノ流通ヲ見ナイノデアルケレドモ、時ニ超過額ガ市場ニ現ハル、コトガアル。而シテ其ノ結果ハ具體的事情ノ如何ニ由ツテ必シモ同一デナイノデアル。(Vol. II. p. 104)

元來、スチュアートハ貨幣ヲ以テ勞働、商品ノ價值ヲ表象 representation スルモノデアルトスルヒュームノ説ニ反對シテ (Vol. II. pp. 99-102) 表象デハナイ、對價 equivalent デアルト主張シ

テ居ル。ヒュームノ議論ハ哲學的デアルガ、商業的デハナイト言ツテ居ル。斯カル風ニ多クノ具體的事情ヲ眼前ニ陳列シタカラ、彼固有ノ貨幣價值論ガ徹底シナイノデアラウ。

次ニ、貨幣ノ材料タル金銀ハ商品デアル。其處デ金銀ノ需要ガ増加スルト共ニ金價若クハ銀價ノ騰貴スルコトハ勿論デアル。今、同時ニ二種ノ金屬ガ一國內ニ流通スルトキ一方ハ他方ノ尺度ト成リ、而シテグレシウムノ法則ニ由ツテ一方ハ他方ヲ驅逐スルニ至ル。此ノ現象ハ貨幣自體ヨリ起ル貨幣價值ノ變動デアル。此ノ理由ノ下ニスチュアートハ複本位制ノ缺點ヲ攻撃シ其レヲ排斥シタ。

(Vol. II. pp. 282—298)

スチュアートガマーカンチリスト最後ノ星デアルト云フ評ハ前ニモ述ベタガ、彼ノ所論ノ主旨カラ見レバ、彼ハ自國ニ逆ナル貿易差額ノ結果トシテ貨幣ガ國外ニ流出スルコトヲ必ズシモ憂ヘテ居ラナイコトハ一異彩デアル。彼ハ一國內ニ行ハレテ居ル價格法則ト同様ノモノガ國際間ニモ行ハレテ居ル。即チ國際市場ニ於ケル貨幣不足ハ紙幣トカ銀行券トカデ補ハル、カラ、國際的ニ貨幣其ノモノヲ交換スルコトハ重要ノ度ヲ失フニ至ル (Vol. II. p. 115)。貨幣ハ總カニ勘定ノ決濟ニ用フルコトガアルダケデ、シカモ其レハ國內ニ於ケル貨幣ノ流通力ニ比スレバ極メテ微々タルモノデアルト信ジテ居タ。

「外國貿易差額ハ如何ニ大キクテモ一國ノ全賣買ニ比スレバ頗ル微々タルモノデアル」 (Vol. III. p. 291)

スチュアートハ初メテ發券銀行ガ國際的貨幣交換ヲ調節スルコトガ出來ルト言ヒ出シタ。貨幣ハ

總テ發券銀行ノ金庫ヲ出入スルノデ、流通要具ノ需要ガ増加スレバ發券銀行ハ手形ヤ紙幣ヲ發行シ、需要ガ減少スレバ其レヲ吸收シテ以テ流通ヲ調節スルノデアル。(Vol. III. pp. 199-203)

終ニ臨ンデホフマンノ言葉ヲ藉リテスチュアートノ貨幣價值論ヲ批評シテ見ヨウ。

スチュアートハ國民經濟上貨幣ノ必要ハ常ニ必ズ滿サル、ト云フ事實カラ出發シテ、貨幣ノ側ニ於ケル貨幣價值ノ變動ハアルマジキコトデアルト云フ重要ナル立論ヲシタ。而シテ彼ハ巧ミニ貨幣評價説ト發券銀行職能論トヲ自家樂籠中ノモノトシタ。

スチュアートノ貨幣價值論ノ根基トナルモノハ、價格ノ變動ハ常ニ商品ノ側ニ於テノミ行ハルト云フ價格法則デアル。サレバコソ貨幣ハ單純ナル表^{レプレゼンテーション}象^{エキワレント}デナイ、對價^{エキワレント}デアル。內在^{エキワレント}ニ價值ヲ持ツテ居ル。從ツテ理論上、他ノ商品ト同様ニ其レ自體ニ於テ價值變動ヲ起スコトガアリ得ル。

此ノ點ニ於テスチュアートノ議論ニ矛盾ト不徹底ガアル。

吾人ガスチュアートノ論ズルトコロヲ通觀スルニ、彼ノ中心思想ハ結局「貨幣渴仰」^{拜金}タルヲ免レ難イケレドモ、貨幣價值論ニ就テハ比較的正確ナル方向ヲ指示スルモノ、アルコトヲ認メネバナラス。貨幣問題ハ當ニ時人ヲ悩マシツ、アツタ謎デアツタノデ、彼ハ信用ノ樹立ト維持トヲ説イテ、貨幣問題解決ノ秘義ヲ示サントシタ。之レ彼ノ說ノ重要ナル所以デアル。

然ラバ當時ノ貨幣問題トハ何デアルカ。吾人ハ茲ニ英國幣制史ヲ通觀シテ、通貨問題、物價問題ノ心核ニ觸レル爲ニ努メナケレバナラス點ニ立ツタ。蓋シスチュアート自ラ所謂ロツク・ラウンヅ貨幣論爭ニ對シ批評ヲ行ヒ、彼ノ前ニ横ハル時弊ヲ救フベク建策スルトコロアツタノデアル。(完)